

大妻女大家政 ○ 呑山委佐子 田中千代学園短大 古賀寿美枝

小田巻淑子 文教大教育 伊地知美知子 共立女大家政 小林茂雄

目的 中高年女性は、ライフスタイルの多様化の中にあつて、保守性を求める一方で心の豊かさや、個性的表現を求める傾向がある。現在の衣生活は、ほとんど既製服の中から選択し、着用することが多いと思われる。本報では、既製服に対する評価及び、要望と不満について検討した。

方法 調査の概要は、第1報と同様である。主たる項目は、既製服のサイズの適合性、デザインと色彩、購入、価格、管理、構造等への評価及び、不満についてである。データの集計、分析は、単純集計、クロス集計、 χ^2 検定、因子分析の方法を用いた。

結果 中高年女性の既製服への評価は、全体的には、ほぼ中庸傾向がみられたが、「通信、カタログ販売の商品は、デザイン、サイズが少ない」「価格が高い」「取扱いの困難なものが多い」という項目では肯定的な結果がみられ、「サイズの適合しないものが多い」「着くずれしやすいものが多い」等の項目では、比較的否定的な結果であった。因子分析の結果では、第1因子にサイズ適合性が、第2因子に価格、購入、管理に関する性質が、第3因子にデザイン、ブランドに関する性質、第4因子にデザイン、色合いに関する性質がみられ、第4因子までの累積因子寄与率は、54%であった。クロス集計の結果では、ローレル指数とサイズや形態への適合性の間で有意な関係があり、ローレル指数の大きな人ほどサイズの適合性に不満の大きいことが分かった。また、身長とたけ寸法の適合性との間にも高度に有意な関係がみられ、中高年女性の場合、身長150cm以下で約60%が、155cm以下で約40%がそでたけやスカートたけの直しを必要としていることが明かとなった。